

移転斗争 方針

方針

筑波移転をめぐる、教育大内の動きは、昨年秋以降、教授会の動きが我々には把握しにくいものになってしまった。しかしながら、以下に述べるように情じは極めて悪いものであるが故に、我々がなすべきことは情報・資料の(集)から、移転問題全体を力へする運動方針を出すための討論をすることではなく、当面の方針設定とそれを実践することである。

情け

昨年の秋以来、文学部教授会は、移転反対から、文学部の大塚残留(大塚地区を中心として)へと後退してきたが、現在はさらに後退し、とにかく文学部が大家に残ることを含めた形で、筑波をオエ工候補地とすることに傾いているようである。

これには次のようないくつかの要因が作用しているようだ。
まずオエは、^素粒子研究所のために5億円の予算が下された。

オエに、住宅公団が建設省に要求してきた土地計画法の適用へ土地収用を容易にするために、この適用には、教育大の土地というよりは、具体的な土地収用プランが必要に建設省がふみきるだろうといつ見通し。
オエに、以上の動きがますます移転促進派の焦りと、早期移転決定への衝動を呼ぶものであること。もし、教育大が移転決定をきないとさは、筑波の新設大学に合流することも考えられる。

やうに、農学部が全学一かつ移転から、今かつ移転に傾いていること。

一方、移転希望の理学部においては、各研究室でこれぞれ、現実的可行性とその必要性の明確でないプランをねつてはいるものの、未だ理学部としてこのプランは立てられていない、とにかく広い土地がほしいということにどまっている。

また、教育学部は、一応筑波の可能性を追求してゐるが、たゞやめるという途中下車説へそれは理学部の教授の中にも多數いるし、それが不可能であることを無視して、とつていていうようである。

四月十二日教授会、四月十九日理教検会、四月二十八日評議会といづれも議題の中で、筑波をオエ(補)候補地とする決定が下される可能性が高い。

以上のようないくつかの教授会の動きは、我々が生張してしまった、教育大全体をどうするかという視点を欠いてるものであるが故に、我々は、論理的には、昨年秋の方針(コムソモール——教室会試験催運動を起こせ!)を貫徹することを十分対応出来ると思はれる。しかし、学生の動向は、昨年秋以来、ショック療法では効果がないことを示してきた。また自治会執行部の動きをみても、極端に威力を低下させていたので、我々には、やはり、拠点クラスの設定と、そこからの執行部つきあげ以外には方法はないと思はれる。

斗いの方同は、もちろん、四、十二、十九の教授会の決定によるか、筑波をオエ候補地とする決定がなされるとさは、四、ニハ評議会申懇反対である。そこにおいて、我々は、自治会執行部へ結集する形で斗うことが必要であり、斗いの視覚における彼らとのちがいを、評議会申懇反対の力を分散させるものにしてはならない。

情け ベトナム反戦斗争 方針

非武装地带ごしの北ベトナム領砲撃、艦砲射撃の強化、河川への機雷投下とオシ、エスカレーションは進行してゐる。そしてその裏には、メコン・デルタにおける「掃討作戦」の粗々失敗、北部高原来における解放戦線の反撃、北ベトナム軍民の喪える(少ない)英雄的な抵抗等々ベトナム人民の先進性が存在してゐる。テト年改後の大爆弾事件(ベトナム戦争におけるその重要性を示す)、スミ辛の震勝成年流行の意志を全世界に示したものである。又米国内の、大統領選を控えての事態から、ベトナムにおいて何らかのメドをつけることが策動されられる。ダム島空襲はそのような意味を有してゐる。更に参戦の状況について(こゝに限らず、虐囚政策によるトナムへの飛兵リベトナム、米との特需貿易による自己の反動的基礎を築めんとしている)(この度は虐囚大統領選においても、表立つた飛兵反対は唱えられていない)(オーストラリア海軍の派遣、タイへの爆弾輸送の大躍進)……。沖縄、更に本土の基地(中でも横須賀、江川)の東す役割の重大さは、米政府へ表明する通りである。佐藤政府の閣組政策はされてゐる「早いの長期化と泥沼化の進行」

その東南アへの逐次進出ともって深く広く展開つつあると判断される。ハーフリー未だに対する

山一アをはじめ、各都市の抗議行動、アメリカにおけるこの討伐されていいる春の大動員等はそのモチベーション。

方針

日本政府の侵略に反対し、それを打ち替へ日本の主軸を支える。それが大きなXマルクマールであり、又日本の平和運動に対する重大な改善であるエンターライズ。

立川空襲基地の松原の海行と新潟阻止する。

日米安保条約に核による平和、専制による平和を攻撃する政治、独立のイデオロギー的な攻撃を振りくすしつつ、安価な要素を形成する。そのため、従来不足していた学内における諸活動を強化し、特に仁太郎式的一的武装を推進する。

口述

組織的には平和組合を発展させる方向に各自治力更に、専門の平和に対する諸意見を反映し、それ

口述

批判、発展させたいだけの技術も開拓し、それが批評力阻止斗争においては、参政者の周到な確

口述

うに、多くの差異はあれ、統社同、統一有志員、

口述

大連同、統共の諸君が基本的には我々と同じ志向をもつばかり、彼らと共に一して全国一学生同盟を形成するためやう必要がある。しかしながら、この統一は野呂であつてはならず、大連最初あるいは組合記のしべんにおける徹底的な理記斗争を通しての統一者もねばならない。そのために三面、東京後方にありとあらゆる有志員、民学同の諸君との極常的な連絡を取らねばならない。そのたてに当然、我々は全国有志員に全国への同盟の隊列の整化、とりわけ全国におけるそれを活性せねばならぬ。

またにおけるそれを活性せねばならぬ。

第一に我々と同じ志向をもち、今まで連絡を保つて来た北大、法政、東学大、横田大、中大、及学大等の諸君に働きかけること。(下) (下)

組織方針

我々は未だ体系的、全面的な組織方針を立ててゐるが、同盟の発足に当り、畢竟ここがいかにうちながるか、組織活動の諸点につき全般的な整理をされねばならぬので、以下若干の要について(下) (下)

口述

うな組織活動の諸点につき全般的な整理をされねばならぬので、以下若干の要について(下) (下)

口述